

山名

- 電力需要については、前回提示された情報での「マクロ推計 11,440 億 kWh－省エネ 2,097 億 kWh ⇒ 9,273 億 kWh」に対して、今回の再評価では「マクロ推計 11,770 億 kWh－省エネ 1,970 億 kWh ⇒ 9,800 億 kWh」と変更されたものと理解。妥当な方向にあると理解。
- 節電については、エネルギーマネジメントの拡大や省エネ機器の導入等によって、業務や家庭での節電がこのレベルまで実施できるのかどうかについて根拠が欲しい。また、節電と電気料金の連関を含めて、過度の節電を前提とすることの、経済活動への負のフィードバック効果への懸念が残る。成長率 1.7%が、節電と省エネを前提として達成できるものなのか。
- 既存発電設備の老朽化と今後の設備更新に対する見解が不足しているのではないかと。特に、火力発電設備についての、設備老朽化の傾向が、議論している節電の方向性や、ミックスの議論に合うのかどうかについて注意が必要である。

大型の電源設備の老朽化の傾向

火力発電設備について50年での退役を仮定。新電力による設備については、情報不足により、全てをカバーできていない。

